

第 187 回川越市都市計画審議会 会議録

※以下は当審議会における「川越市都市計画マスタープランの改定について」に関する審議内容のみを抜粋したものです。

第 187 回議案第 1 号「川越市都市計画マスタープランの改定について」

議案説明 資料：川越市都市計画マスタープラン全体構想改定骨子案

質疑

(委員) 「部門別まちづくりにおける課題」の「道路・交通体系」に「自動車の流入抑制」と記載があるが、具体的なイメージはあるか。産業関係はある程度影響を受ける事業者も多いと思うが、事業者とのすり合わせができてきているのか。

2点目、「将来まちづくりのあり方」でバスの活用がうたわれている。自動車の流入を抑制するからバスも活用しようということだと思うが、各地域とも採算性が非常に厳しく廃止のバスが多い。それも含めてバスの活用をうたっているのか。また、バスは二種免許が必要だが、少子高齢化が進む中で労働人口は減少し、運転士の確保についてバス事業者と打ち合わせ等ができてきているのか。

最後に、「土地利用の方針」に中核企業の誘致とあるが、具体的な目処があるのか。

(担当課) 自動車の流入抑制については以前から市内の自動車交通と観光客の歩行者等との課題でいろいろ挙げられているが、具体的な方策は決まっていない。

バス事業者との協議については、高齢化によるバスの運転手の確保が現在でも課題として挙げられていることを踏まえて、今後の記載については精査していきたいと考える。

産業立地について、周辺市町村もかなり企業誘致をしていることもあり、川越市も財政上厳しいことから、必要に応じてできる範囲で誘致を試みていきたいと考えている。今後、川越市に必要な企業の洗い出しをする予定。

(委員) バスの活用について、民間企業と連携して無人バス、無人交通といったものを試験的に導入している地方公共団体もいくつかあると聞いている。川越市のように観光の歩行者が多い地域で実現可能かどうかという問題もあるし、費用対効果の問題も出てくると思うが、逆に言えば観光客が来ない地域については検討可能かと思う。将来的な案として検討していただければと思う。

(議長) 今年4月から、特定の場所で自動運転が解禁された。東京オリンピックの選手村では自動運転バスが走っていた。そのようなものも、20年後を見据えると十分ありえるかもしれない。こういったところを考慮して引き続き記載するようにして

ください。

(委員) 道路・交通体系の整備方針で路線名が挙がっているが、どこの道路のことかわからない。図と対比できるようにした方が良い。

(委員) 埼玉県中でも北部と南部では人口的な流動があると思うが、本市の現状の人口推計にそういった影響は見ているか。

2点目、20年後は既にできている幹線道路も変わってくることが予想される。例えば川越志木線は、その先の富士見市では流通系、ふじみ野市は工業団地を造成して流通系の建物を建てている。川越市は川越志木線に何も活用を想定していないのか。

3点目、インターチェンジからのアクセス道路の整備等について、他市ではインターチェンジ等を活用して大規模な土地利用の見直しを行っている。川越市は一歩進めた土地利用の見直しは想定していないか。

最後に、主要な幹線道路ができると20年の間に交通の体系が変わってくると思うが、例えば、北環状線の内側は全て市街化区域に編入するなど積極的な土地利用の考えはあるか。

(担当課) 人口動態については、現在県内については検討していないが、検討していきたいと考えている。

北環状線の沿道利用や幹線道路の活用等は、今まで考えていなかった。用途の有効活用について研究が足らなかったが、必要性は重々感じている。土地利用転換については産業系に特化する可能性はあるが、土地利用転換箇所を新たに位置づけたいと考えている。沿道利用は現行計画でも流通系沿道利用という形で位置付けているので、沿道利用を進めるにあたって用途的なものや市街化編入について、国・県と協議が必要な部分もありなかなか進められていないのが、研究して今回載せられる部分については配慮していきたいと考えている。

(委員) 「部門別まちづくりにおける課題」の「土地利用」について、農業就業人口の減少が加速度的に広がっているのと同時に、産業系土地利用ニーズの高まりということがあるが、土地利用をどのように考えているのか。

(担当課) 現在、土地利用転換箇所で土地利用を進めているところも何箇所もある。開発場所の相談は毎年かなりの件数きている。川越市の場合、土地利用構想的な箇所というのが限定されていることもあり、これまでは「できない」と回答してきた。周辺市町村はかなり造成を始めているので、川越市も相談に対応できないか、他の部署

も含めたプロジェクトチームを作り、土地利用箇所を決めていきたいと考えている。

(委員) 川越市は優良農地がたくさん残っており、保全しなくてはいけない農地がたくさんある。優良農地をなくす可能性もこの骨子案にはあると思う。10年、20年後を見据えたときにこの視点でいいのかと不安に思う。川越狭山工業団地は約50年経過し、設備更新に広大な土地が必要だ。また、新たな産業が移り変わってきているところである。産業系の土地利用のニーズの高まりと、農業者の人口減少というのをあまり結び付けないで欲しい。ただ単に産業団地を増やせばいいということでもいいのか。今後のビジョンをしっかりと持って取り組んでいく方がいいと思う。

(議長) 農業の適地もあるし、必要に応じて他の産業の適地も考えるというスタンスで、うまく川越らしいバランスをとるということで反映するように考えてください。

(委員) 1点目、交通量の動向についてはこの計画の策定に当たりどのように考えているのか。道路整備が進むことにより車の流れが変わる、あるいは高齢化により保有台数が変わる、その中で交通のあり方も変わっていくと思うが、どのように考慮されているか。

2点目、「将来まちづくりのあり方」で、「地域活動の中心となる拠点」の形成がうたわれているが、現マスタープランでは都心核、地域核、生活核、それから産業拠点という位置づけがあるが、中心市街地と郊外、駅のある地域とない地域など、地域特性を踏まえて拠点・核というものをもう少しきめ細かく考えていく必要があると思う。

3点目、従来の計画と対比できる資料はあるか。

(担当課) 車両の交通量等の調査については、現マスタープランでは考慮していない。道路の効率的な整備を行うために今年から委託業務で道路整備の見直しを考えているので、部分的に加えられるようであれば考慮していきたい。

「地域活動の中心となる拠点」について、都心核、地域核、生活核ではないところを「将来まちづくりのあり方」の考えから外すということではないため、書き方については検討したいと思う。

現マスタープランとの対比資料は、今後整理できれば提示する。

議案説明（川越市都市計画マスタープラン地域別構想改定骨子案）

質疑

(委員) 南古谷中心の話になるが、骨子案を見て20年後のイメージができない。沿線の

計画や、南古谷駅北口の開設に合わせた地域周辺について、どのようなまちにしていきたいのか見えてこない。南古谷は川越線の複線化の話も進んでいる。まちづくりをしっかりと進めることで複線化も見えてくるのではないか。計画なきところに実行はないと思う。

(担当課) 土地利用の検討がうまくいっていないことは承知している。現実的にできるのかを考えてしまうが、将来を考えるのであればもう少し踏み込んで検討していくべきだろうと思う。今後、土地利用について検討する内容で記載ができればと思っている。

(委員) 本庁地区について、3駅周辺となっているが、例えば川越駅一つとってみても、東口と西口は顔が違うと思っている。観光客も多い東口は川越の特徴である観光都市としての歴史、景観を重視すべきだと思う。逆に西口は新しい川越の顔という面もあると思う。この括りにすることで駅前が同じようになってしまっていないのではないか。開発業者からのアプローチがすごくあるので、20年先を考えている間にどんどん空き地にビルが建ってしまう。その点も整理していけると良いのではないかと思う。

(担当課) もともと三駅中心の計画になっており個々に記載していないが、住み分けて記載ができるようであれば記載していきたい。まちの顔については、景観等も関わってくるので、部内等で整理して考えていきたい

(委員) 一つひとつの動向・課題・方向性について、それぞれの地区などの意見を募った上での事務局の提案ということではよい。

マスタープラン策定時は、多くの市民が関わった。見直しと言っても今後20年を決める重要な転換点でもあるので、暮らしている多くの市民の声を吸い上げていく必要はあると思う。この説明会を様々な団体に呼びかけているわけではないとすると、そういう場があれば言いたかったということになる。説明会は市の考えを説明する一方通行の場所である。地域によっては様々な団体を立ち上げているので、そういったものを活用し、今からでも意見を吸い上げた方がいいのではないか。これからの20年を決める計画の変更をするのであれば、そこは検討事項だと思う。

(担当課) 今年1月から6月まで、インターネットでまちづくりについて市民等の意見を聞き反映した部分もある。また、今月から各地域で説明会を行う予定である。今後は、インターネット等で意見を聞き、反映できる部分については反映していこうと考

えている。

他団体等の意見を吸い上げる場を模索して、できる範囲で考えていきたいと思う。

(委員) 中央通り線を優先的に整備すると記載があるが、本当に進めるのか。計画変更もあり得るのではないかと思う。将来的にモータリゼーションはどこまで続くのかわからない。ドローンなどいろいろな移動手段が出てくる可能性もある。道路最優先という考え方ではなく、道路網をどうするのか、今後の産業の進行も見通したまちづくりも必要ではないかと思う。中央通り線の先の一番街は拡幅できるような状況ではないということも加味して、全体網をどうするのか。骨子案の書きぶりで大丈夫なのか不安である。

(議長) 地域の声を聞くというのは非常に重要。7月18日から市内6箇所で説明会が開催されるわけで、これを一つの皮切りにして、ここで皆さんの参加、関心を高く持っていただくような最初の機会にさせていただくことが重要ではなかろうかと思う。地元の方々、地域の方々のご意見を伺い、あるいはご意見が出やすいような環境を作るように努めてもらうのが重要だと思う。

本日の都市計画審議会についても、これをきっかけにして、委員から事務局にいろいろ意見を出してもらえればと思う。

(委員) 立地適正化計画との関係を知りたい。立地適正化計画では居住誘導区域・都市機能誘導区域があるが、同プランには記載がない。

(担当課) 立地適正化計画は、都市計画マスタープランの一部であるが、見せ方の関係上、居住誘導区域・都市機能誘導区域をマスタープランの地図に重ね合わせた記載はしていない。

(委員) 農業の視点は考えているか。全体構想では水と緑という言葉を使っているが、全体構想・地域別構想ともに「農」という言葉は使われてない。川越は農に支えられてきたまちであるのに一切書かれておらず、農に携わっている人の姿が見えない。まちづくりの中で、川越の農をどのように考えているのか。「農業」ではなくてもいいので、「農」という言葉はどこかに入れた方が川越全体のまちづくりということでは響くと思う。

(担当課) 農業という表現は都市計画から切り離して考えていた部分があるように思う。景観については、田園風景の維持・保存という表現はしているが、農業について具体

的には記載していない。検討する。

(議長) 今後、7月18日から地域別説明会、11月に素案について当審議会でご意見を頂戴することになると思う。

本件については継続審議ということにしたい。

審議結果：継続審議